

地域学校薬剤師研修会報告

千葉県学校薬剤師会柏支部 大塚昌孝

9/16 小雨もばらつく中、59名の学校薬剤師が参加しアミューゼ柏にて東葛5支部の地域学校薬剤師研修会が行われました。この研修会は3年前から行われ、千葉での研修会に参加できない先生方にも地元で研修の機会を提供したいという趣旨のもと、千葉県学校薬剤師会の主催で毎年東葛5支部合同にて行われております。

今年は「薬学的見地から危険ドラッグを検証する」と題しまして東京都薬剤師会・衛生試験所の安田一郎先生にご講演をしていただきました。千葉県では危険ドラッグ（合成カンナビノイド）によるものと思われる緊急搬送が平成21年から5年半の間に100件発生していて、全国でも12位の発生件数となっているようです。危険ドラッグの事件で衝撃的だったのは、平成26年6月24日に東京・池袋であった使用者が車の中で口から泡を出している映像ではないでしょうか。この症状はカタレプシーとはっきりわかる映像として全国に流れました。安田先生のお話によると合成カンナビノイドの人への作用として程度が小さいと陶酔・多幸感、中程度だと異常行動・鎮痛作用・精神錯乱、大きいとカタレプシー・意識障害が起き、腎臓へかなりの負担がかかることが分かってきたそうです。

危険ドラッグの3つの不明として①成分含有量が不明②併用・毒性が不明③以前のものと同じか不明が挙げられ、子供たちに薬物乱用防止教室などで危険性を話していく必要があります。最後に薬物乱用防止教室を任されるにあたっての心得を教えてくださいましたので、ここに提示させていただきます。

「薬剤師は取締官ではありません。医療人です。伝えることを独自の教材を用いてはっきり話すこと。身近な事例を選ぶこと。」

ご講演の後、地域での情報提供及び共有のために3名の先生に発表していただきました。柏支部の秋山恵美子先生からは子供達への防煙教育に関して、授業で使用するスライドを使用し子供達に説明する上での要点を解説していただきました。次に松戸支部の阿部恵先生より、エピペンの使い方に関する研修を担当校の教員へ行った際のアンケート調査に関する考察が発表されました。意外にベテランの先生の方がエピペンの使用法や知識に関して知らない先生が多く、放置しておけない問題があることに気付かされたそうです。最後に流山支部で千葉県学校薬剤師会常任委員の藤波先生より8月に参加されてきた環境衛生技術研修会の報告があり、主に教室における検査（空気・騒音・気流・相対湿度など）に関する意義や注意点に関するレクチャーをしていただきました。（内容に関しては県薬紙に報告予定）

学校薬剤師として防煙教育・薬物乱用防止教室・エピペン研修会・各種環境衛生検査への造詣の重要性などを改めて感じた研修会でした。



(畑中会長より挨拶)



(公演中の安田一郎先生)



(熱心に聞き入る会員)